

今年度の小論文は、

- ・ 問題の資料として環境情報学部及び総合政策学部の過去問およびその解答例・解法例を用いた
- ・ 問題を作るといふ問題を出した

というメタな構造が特徴になっています。そうした「問題全体の構造」を捉えられているかによって、解答の質が異なってくると考えています。それぞれの設問の出題意図は以下の通りです。

設問1)の資料である過去問題には「『考える』とはどういうことか?を考える」ような問題を選り、メタな思考力について記述してもらおうとしました。

これらの過去問題を選んだのは、「考えることを考える」ことを気にかけている：勉強法を自分で編み出すとか、よりよい情報収集の方法を自分なりに工夫している等、自身の思考に対して省察的な思考ができる学生に入学してもらいたいと考えたためです。自分自身で知のあり方を編み出したりそれを自身で更新していけるような学生は、SFCが求めるような複合的な研究分野を開拓できる素養があると考えています。

設問2)の資料である過去問題には、柔軟な着想力によって問題の「構造」を見抜いて解法を決め、アルゴリズム的に処理を進めることで正解にたどりつけるような問題を選び、柔軟な着想力および論理的な思考力について記述してもらおうとしました。

これらの過去問題は、問題が示した具体的な状況を把握した上でその本質的な構造を抽象化して見抜けないと解答できない問題です。どの問題も柔軟な思考と論理的な思考の両方が求められますが、そうした二つの知的能力を備えた学生に入学してもらいたいと考え、こうした過去問題を選びました。

何かしらテストの問題を作る人は、その対象となる知識や能力について一段上のメタな視点から捉えられている人であると言えますが、設問3)では問題を作るといふことがそうした行為であることを理解しているか、メタな思考力があるかをこの問題で再確認しようとしていました。

具体的な出題意図と問題が書ければ、設問1)と設問2)で記述したSFCで求められている知的能力に自分の得意なスキルや能力を組み合わせる素養があるかを見られるのではないかと考え、そうした素養がある学生であればSFCでの学びによって自らを羽ばたかせることができる可能性が高いのではないかと考え、出題しました。

以上